# 平成21年度　白鳥寮・しらとり　事業計画概要

## 前年の概況

1 入所 6世帯、退所5世帯あり、入所3世帯はDV、1世帯の児童が被虐待児、2世帯が若年母子の世帯が1あった。退所4世帯は都営住宅、世帯分離の退所が2あった。

2 今年度在籍25世帯中、府中市からの受入が4世帯の他、保護実施機関は11市あった。

3 東京都、市区町村（他県含む）、大韓民国・民間団体・その他関係者約200人の見学者を受け入れ、対応した。

4 更なるサービスの向上に向け、平成16年度から第三者評価を継続受審(訪問日:12月12日福祉経営ネットワーク)のほか、サービス自主評価も3児童施設共通で12月に実施し

5 支援センターは「たっち」との連携を整備し、職員のスキルアップを目指し各種研修にも積極的に参加した。

6 「オープンルーム」は24回実施し、約1000組の世帯が参加、2歳児までの母親を対象とする「ミニルームあいあい」を11回実施し、毎回8組以上が参加した。

7 子育て支援プログラムNP（ノーバディーズ・パーフェクト）プログラムを3回(各8日)実施し、27組56名が参加した。内1回は住吉文化センターで行った。行政・利用者より高い評価を受けている。

8 トワイライトステイ事業は他事業所の参入もあった中で、利用数は前年度より減少している。ショートステイ事業は多様な利用理由に対応した。

## 課題

1 利用者が日々安心・安全に生活および利用できる建物管理と維持
「子ども」 が安心して、健やかに育つ環境を最重視

2母子生活支援施設と子ども家庭支援センター職員の連携

3母子生活支援施設に関わる制度施策を学ぶ
「法律改正や制度変更等を正しく理解する」

4 白鳥寮における若年・外国籍・精神的課題・DVといった入所世帯への対応強化

5 府中市における新たなサービス事業の構築、展開
①トワイライトステイ等利用者数の減少への対応
②府中市他関係機関との連携

6 築13年を経た建物の修繕に備える体制整備
①設備の老朽化への適切な対応
②中長期経費計画の策定

7 記録の正確、適切な記述、文章作成を行うための職員のスキルを高める。(20年度事業評価分析シート　課題より)

## 本年重点ポイント

重点ポイント
1 利用者が安全・安心に生活できる場の提供
防犯防災の徹底と利用者からの信頼を目指す。
2母子生活支援施設と子ども家庭支援センター職員の連携を図る。
3 法律改正や制度変更を理解し対応する。
若手職員中心に内部研修を実施する。
4多様な課題を抱えた利用者との信頼関係を築くため、夜間職員体制を充実する。
5 子ども家庭在宅サービス事業の検討
トワイライトスティ・病後児保育等の調査と分析
6 現状にあった「あるべき施設」の検討
利用者ニーズに見合った『あるべき施設』を歴史と現実を踏まえ再考する。
7 個別支援計画に沿った利用者への自立支援
自立支援計画に沿った支援と正確な記述。定期的な振り返りによる支援方針の見直し
8 ノー残業デーの実施
9 計画的な建物の保守管理の実施

## 全体を通した考え方

法人の理念である「私たちは家族を支援します。」を再認識し、子どもたちの福祉の向上に取組む。また、
地域の方々に感謝の気持ちをもち、『子育て支援』の核拠点としての役割を担うと同時に、『母子生活支援施設』として利用者に深い共感をもち、安全安心を常に心がけ、安心して暮らせる施設を目指す。

しらとりの方針として
1 利用者の安心・安全を保持する。
2 地域との連携を図る。
3 節約に努める。
4 常に防災に心がけ、火を出さない。
5 利用者、地域の方の声を聞く。

近年の利用世帯はDV被害者や虐待等を受けた世帯が多く、心理的ケアが重要視されている。
また、現在、社会的養護体制の見直しがなされる中、現行の施設のあり方の見直しが検討され、母子生活支援施設も、この特性を活かしつつケアの改善が望まれている。

| | | 対利用者 | 職員・業務 |
|---|---|---|---|
| 運営・管理 | | 1 利用者、職員と互いに協力し、毎月の訓練を重ねながら防災意識を高く持ち、安全な施設の維持に努める。<br>2 警察の防犯指導に沿った来所者の把握、部外者の進入防止に努め、利用者、子どもに安全な生活環境を提供する。<br>3 安全衛生面に焦点を当てた施設内巡回を定期的に実施し、環境整備を速やかに行い清潔な生活空間を保つ。 | 1 職員の健康管理および心のケアに配慮する。(定期面談の実施)<br>2 コスト管理の徹底により、効率よい運営を実施する。<br>3 第三者評価および自主サービス評価を継続し、利用者視点でのサービスを推進する。<br>4 各種研修に参加し、スキルを高める<br>(外部研修・法人研修・施設内研修)<br>5 整備したマニュアルを検証し、更なる活用に向け改善する。<br>6 適切な施設運営を行っていくために、毎月1回施設長、各部署の代表を中心とする運営会議を実施する。 |
| 府中市委託事業 | 子ども家庭支援センター | 1 利用者への的確な対応ができるよう「たっち」とのケース会議・研修の共有を図る<br>2 オープンルームの開催（年24回うちあおぞら2回−黒鐘公園および武蔵台文化　センター広場)ミニルームあいあい(年12回 )<br>3 母親支援プログラムNP（ノーバディーズ・パーフェクト　5月～7月・9月～11月出張NPの実施）今年度の出張NPは、生涯学習センターで行う。また各期半年後にフォローアップセッションを1回ずつ行い効果の定着を図る。<br>4 地域子育て支援の拠点・サービスの情報整理 | 1 利用者の話しに傾聴し、関係機関との情報共有を密にし、利用者にとってよりよい支援を行う。<br>2 サービス機能の調整・企画立案をサポートする。<br>3 サービス事業担当職員との連携を密にし、合同のケース検討会を実施することで、スキルアップを図る。 |
| | 病後児保育 | 1 登録時の面談および申し込み電話時でのコミュニケーションを重視する(受け入れ時のトラブル防止)<br>2 関連施設の紹介を的確にできるようにする | 今後の事業体制について府中市と協議する。 |
| 母子生活支援 | 母親 | 1 利用者が自立に向けて、個々の目標を達成できるように支援する−定期面接（年2回）の実施<br>2 心理職（臨床心理士他）との連携による、心のケアに基づく利用者支援を行う。<br>3 就業支援−ハローワークおよび求人情報の提供や技能習得を支援する<br>4 若年層の利用者への自立・子育て支援をする | 1 自立支援計画の策定<br>自立支援計画に沿った支援の実行。<br>2 心理職との連携<br>子育てプログラム「ミニ・マザー」・「フォレストルーム」・「ノーバディーズ・パーフェクト」を実施する。<br>3 技能習得に向けて<br>必要な個別支援を行う。<br>4 若年層の利用者への支援 |
| | 学童 | 1 子どもたちが安心して生活できるように、日常の生活や行事を通して、　仲間意識を育みながら支援する。<br>2 課題のある児童に対しては個別支援を行い、支援計画に沿った支援を行う。必要に応じて心理職、学校、関係機関と連携し、支援する。<br>3 子どもたちが、遊びや行事活動を通じて、豊かな感情を養うように支援する。<br>4 様々な場面で子どもたちに発言の機会を設け、自主性を育む。 | 1 施設内学童保育の安全管理の徹底<br>2 職員同士で学童・トワイライトのケースについて共有できるように報告、連絡、相談を確実に行う。<br>3 職員による衛生・環境整備の向上<br>4 他機関との連携強化 |
| | 保育 | 1 母親の就労と子育て支援のために、安全に十分配慮しながら寮内保育を行う<br>2子どもたちが保育者や他児と十分に関わり、安心して様々な経験ができるよう支援する。 | 1衛生管理と安全管理の徹底<br>2柔軟な保育体制<br>3若年層の利用者の子育てを支援する。(栄養士と連携) |
| 連携 | 食事 | 1 施設内保育、トワイライトステイ事業における給食については、季節に応じた旬の食材を献立に取り入れる。四季感を出し、子どもたちの豊かな味覚を形成する。<br>2 利用者に、食への関心が持てる雰囲気・機会を提供し、身近な食育の取り組み（マナー等）を行う。 | 1 衛生管理の徹底<br>2 食物アレルギーへの対応として、代替食の提供 |
| | サービス事業 | 1利用者 ニーズにあったショートステイの受入。<br>2 トワイライト利用者、保護者への季刊通信発行（「おかえりぃ」年4回発行）<br>3 トワイライト・病後児保育事業の再検討。<br>4母子（父子）緊急一時保護事業の再検討。 | 1 教職免許法実習の受け入れ継続（ヒトの活用）<br>2 多様化するサービス受け入れ理由に対応すべく府中市との協議を継続的に実施する |